

■プロジェクト名

非接触センサーによる生体情報の遠隔モニタリング

■事業者名

ジャパン・トゥエンティワン株式会社



センサー設置状況



センサー部拡大図



ナースステーションに設置した
管理画面

■実証の概要

○ 解決したい社会課題(背景・目的など)

高齢化の進展に伴い、医療・介護現場では患者の見守りや健康状態の継続的な把握に係る業務負担が増加している。また、従来の接触型モニタリング機器はセンサー装着による患者負担や、感染管理上の課題がある。そこで本実証では、非接触で呼吸数や心拍数等を計測できる「Neteera130 Plus」を活用し、見守り業務の効率化、患者負担および感染リスクの低減、異常兆候の早期発見による安全性向上に寄与する可能性について検証した。

○ 実証の内容

- 1 実施期間:2026 年 2 月 17 日から 2026 年 7 月 31 日まで
- 2 実施場所:地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市民病院
- 3 使用機器:Neteera130 Plus 非接触モニタリングシステム
- 4 実証内容:本実証では、以下の 3 つの項目を中心に評価を実施

(1) ベッドステータス機能(Bed Status)

患者の在床・離床状態および体位変化の検知性能を評価し、患者見守り業務における有効性を検証した。

(2) バイタルサインおよびベースライン分析機能(Vitals / Baselines)

心拍数および呼吸数を継続的に取得し、患者ごとのベースラインデータとの差異を分析することで、体調変化や異常兆候の早期発見につながる可能性について評価した。

(3) 通知機能および操作性(UI / Notifications)

アラート通知の視認性やダッシュボードの操作性について評価し、医療従事者が日常業務の中で円滑に活用できるかを検証した。

○ 実証結果

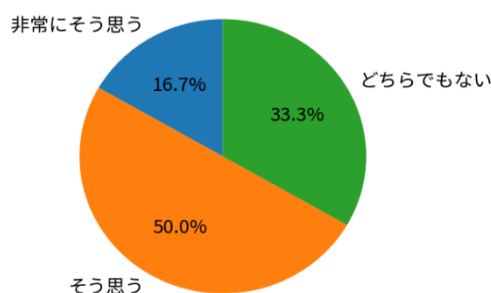
1 結果の概要

実証期間を通じて、Neteera130 Plusにより、センサーを装着することなく、患者の在床・離床状態、体動、呼吸数、心拍数等の生体情報を継続的に取得できることを確認した。また、患者の状態を遠隔で把握できることから、見守り業務支援や、患者への負担を伴わない長時間のモニタリングが可能であることが確認された。さらに、蓄積されたバイタルデータを活用することで、平常時との変化を把握し、異常兆候の早期発見につながる可能性が示された。

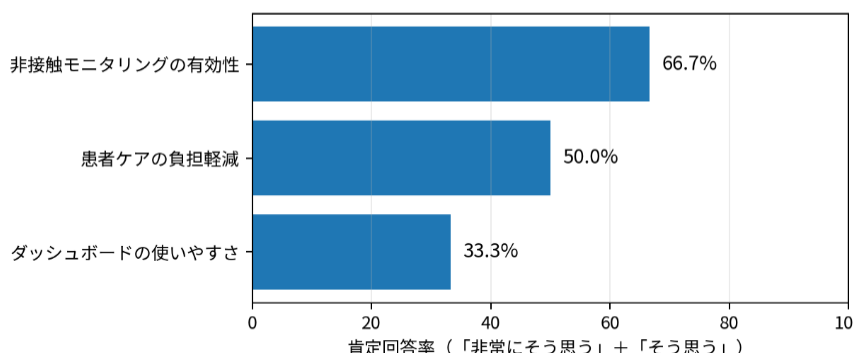
2 アンケート結果(Neteera130plus 有用性の評価)

非接触モニタリングの有効性は66.7%が肯定的。今後は計測開始時間・データ連携・操作性の改善がポイント。

Q2 非接触モニタリングの有効性



主要3項目の肯定回答率



3 課題および改善事項

本実証において一定の有効性が確認された一方で、社会実装に向けて以下の課題が確認された。

①計測開始までの時間短縮	患者の入退室やベッド利用状況の変化に対して、より迅速な計測開始を実現するための改善が求められる。
②既存システムとのデータ連携	電子カルテやナースコールシステム等との連携機能を強化し、医療従事者が日常業務の中で効率的に活用できる環境整備が必要である。
③ユーザーインターフェイスの改善	ダッシュボードの視認性向上、操作手順の簡素化および通知機能の最適化により、さらなる利便性向上が期待される。
④運用ルールを整備	施設ごとの運用フローに応じたアラート設定や表示項目の最適化を行うことで、より実践的な運用が可能になると考えられる。

○ 評価

福岡市民病院における実証を通じて、Neteera130 Plusは、非接触で患者の状態を継続的に把握できる有効なモニタリング技術であることが確認された。本システムは、医療従事者の業務負担軽減、患者の安全性向上およびケアの質の向上に寄与する可能性を有しており、今後の機能改善および運用環境の整備により、病院病棟のみならず、介護施設、在宅医療、外来診療および高齢者見守り分野における新たな見守りインフラとしての普及・活用を期待している。

■問い合わせ先

ジャパン・トゥエンティワン株式会社

【メール】neteera@japan21.co.jp 【電話】03-6775-7450